



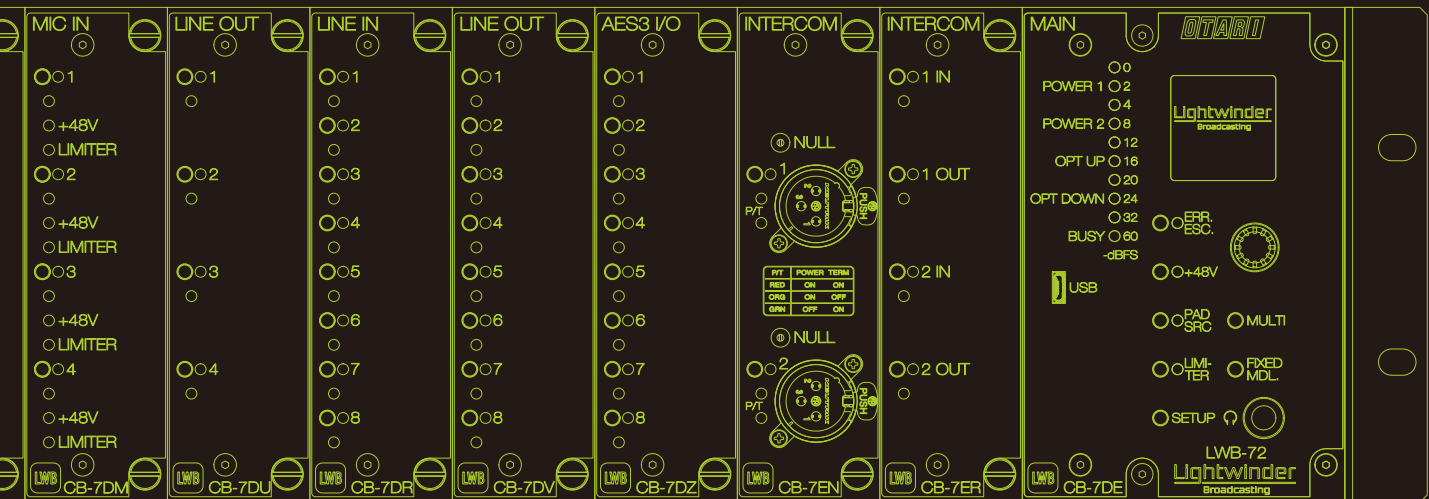
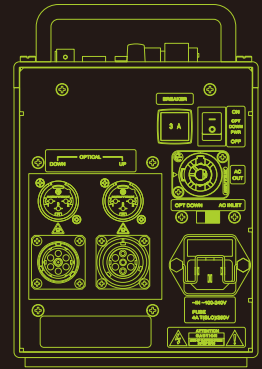
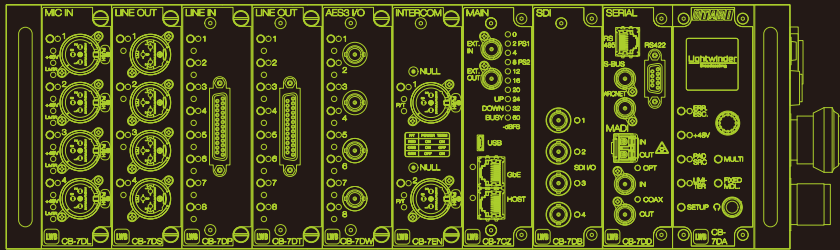
# Lightwinder

## Broadcasting



NEW LWB-24 / LWB-72

2018 Release



# あらゆる現場の要求を追究し、LWB は根本から進化する。

600 台以上の国内導入実績を持つ光ファイバーシステム LWB に待望の次世代機が登場します。

## スタジアムや広大なフィールドをカバーする 24 台接続 / 2048 チャンネル伝送

最大接続ユニット数は 24 台に、最大伝送チャンネル数は 2048 チャンネル (48 kHz デジタル・オーディオ換算) に大幅拡大 (LWB-16M/LWB-64 は 16 台、256 チャンネル)。スタジアム全体やゴルフ場などの広大なフィールドも 1 つのシステムでカバーすることができます。さらに、出先向けユニット LWB-24 は、LWB-16 と同等サイズのまま、モジュール・スロットを 6 としました。

## 効率性を高めるモジュール単位でのサンプリング周波数設定

サンプリング周波数は 48 kHz, 96 kHz, 192 kHz (いずれも 24 ビット) に対応。特徴はモジュール毎にサンプリング周波数を設定できることで、例えば特定のモジュールのみ 192 kHz とし、残りのモジュールは 48 kHz とするような効率の良い運用方法を可能にしました\*。

\* この場合の 48 kHz と 192 kHz は同期している (正確に 4 倍または 1/4 の周波数となっている) 必要があります。

## マルチドロップ・ルーティング可能な内蔵 4 チャンネル HD-SDI ビデオ・モジュール

入出力切換え式の 4 チャンネル HD-SDI ビデオ・モジュールを内蔵し (オプション)、最大で 4 チャンネルの HD-SDI 信号を伝送できます (2 チャンネルの 3G-SDI として使用することも可能)。オーディオ信号と同様に 1 対多のマルチドロップ・ルーティングにも対応し、さらにエンベデッド・オーディオの各チャンネルを他のモジュールのオーディオ・チャンネルとルーティングすることも可能です (オプション)。CB-195 (CWDM ユニット) を接続するには、WDM カプラの搭載 (オプション) が必要になります。

## マトリクス・ミキサー／シグナル・ディレイ機能

マトリクス・ミキサー／シグナル・ディレイ機能が標準で搭載されています。マトリクス・ミキサーは任意のチャンネルに接続できますので、LINE IN, LINE OUT モジュール等を利用して連絡システムのルーティングやモニター出力を設定することが可能です。

シグナル・ディレイも任意のチャンネルに接続でき、映像の遅延に音声を合わせるために十分な遅延用バッファを有しています。

## 細部まで利便性を追求した仕様

従来機への要求項目のみならず、これからの LWB に必要と考えられる機能を細部にまで至り多数取り入れた仕様となっています。GbE 伝送、電源監視機能、高精度レベル・メーター、BB 等多様な同期信号の出力、セカンダリー・クロック・マスター機能等が標準搭載され、モジュール・スロットを消費することなく MADI 入出力の追加を可能 (オプション) としました。

表示器に 128 × 128 ドット有機 EL を採用することでローカル操作を容易にし、LwcV3 (仮称、GUI アプリケーション) については、複数のユニットに PC を接続して、それぞれの PC で同時に起動できるなど、コントロール / モニター面でも高い利便性を実現しています。

## 互換性／新モジュール／レトロフィット・キット

LWB-24/LWB-72 には LWB-16/LWB-64 用のモジュールを装着することが可能です\*1。さらに出先ユニット (LWB-24) 用 8 チャンネル・モジュール、高音質 LINE OUT モジュール、入出力切換え式 AES3 モジュール等の新モジュール\*2 をリリースします。

また、LWB-16/LWB-64 を LWB-24/LWB-72 と接続するために、レトロフィット・キットを用意します。

\* 1) 各モジュールのファームウェア (FPGA プログラム) のアップデートが必要となります。

\* 2) 新モジュールはサンプリング周波数 192 kHz に対応します。LWB-16/LWB-64 に装着することはできません。

次世代 LWB (LWB-24/LWB-72) は 2018 年新春の発売を予定しています。